



# 京山だより

平成 28 年 10 月 28 日

第 7 号

京ヶ瀬小学校

TEL 67-2103

HPアドレス <http://kyogase-es.agano.ed.jp/>

E-mail [kyogase@kyogase-es.agano.ed.jp](mailto:kyogase@kyogase-es.agano.ed.jp)

## 桃栗三年柿八年

校長 伊藤 義人

秋晴れの一日の日番日記に次のような記述がありました。『6年生と一緒に柿もぎをした。「回してとるといいよ。」と教えてくれたり、肩車にして高い枝の柿を取りやすくしてくれたりと有り難かった。あっという間に取り終わり、さわし柿を食べる日を楽しみにしている1年生でした。次々に他の学年も柿もぎをして、秋の実りを楽しんだ1日でした。』



京ヶ瀬小学校のいきいき広場には6本の柿の木があります。毎年、たわわに実をつける柿の木ですが、その由来は今のところ分かりません。(平成元年に学校畑が整備されているので、その頃かも…。)以前に勤務していた時にも干し柿とさわし柿を作った記憶があります。今も受け継がれていることがうれしく感じられますし、京小の伝統になっていると言えます。また、縦割り班の活動で培ってきたつながりが子どもたちの思いやる心を育んでいると実感した瞬間です。



題名はことわざの一つで、『果樹を植えたら、その実がなるまでに相応の歳月を待たねばならないことから、何事も成就するまでにそれ相応の年月がかかるということ』を教えています。「桃栗三年柿八年」の後に、「梅は酸いとて十三年」「柚子は九年でなりかかる」「柚子は九年の花盛り」「柚子の大馬鹿十八年」「枇杷は九年でなりかねる」などと続けていう地方もあるそうです。私のふるさとでは「梨のバカヤロ十八年」と言っていました。子ども心に18年も待てないなあと思ったことを思い出します。また、私が生まれた年に父が桐の木を5本植えてくれたことを思い出します。嫁をもらう頃に箆笥が作れるようにという優しさだったそうです。この二つの思い出が、私に長い時間(スパン)で物事を考えることの大切さを教えてくれます。

今年の音楽発表会では6年生が郷土芸能に挑戦しました。地域の方々から教えていただきながら練習した京ヶ瀬甚句と御伊勢神楽の見事な出来栄に大きな拍手をいただきました。コスモス京ヶ瀬祭では中学生に教えてもらいながらフリーマーケットに出し、チャリティグッズの販売を行いました。ご家庭から寄せていただいた寄贈品と併せて5年生の有志が意欲的に販売計画を立て、当日の活動に取り組みました。今度はさわし柿を売るんだと張り切っています。

地域に根ざした学校、地域に貢献できる学校づくりの足がかりができたと感じています。柿の木のように長い時間をかけて、家庭や地域の方々と力を合わせて育てていきたい活動です。

みんなの心が一つになった



# 音楽発表会



音楽主任 加藤 千恵

今年も、10月15日(土)に音楽発表会が行われました。

どの学年も、この日に向けて歌に演奏に一生懸命練習を重ねてきました。音楽の時間に学習した曲をはじめ、それぞれの学年らしさが表現できる曲を選び、学年のめあてや自分のめあてを立てて取り組んできました。休み時間にも、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、太鼓や笛などの楽器の音、歌声が様々な教室から聞こえてきました。

また今年度は全校合唱を「ふるさと」にしました。9月に登った五頭山、学校のすぐそばを流れる阿賀野川に思いを馳せ、雄大な自然をイメージして練習してきました。当日は子どもたちと共に、お家の方・地域の方々の声が重なり、体育館いっぱい歌声が響き渡りました。京ヶ瀬小学校区のみなさんと心をつなぐことができたと感じ、うれしくなりました。ご協力に感謝しております。

学年の発表ではどの学年も、一人一人がこれまで練習してきた力を出し尽くすことを目指して演奏していました。指揮者を見ながら、仲間と心と息を合わせようとする真剣なまなざしや、自分たちが歌や演奏に込めた思いを、聴いてくれる人に届けたいという気持ちが、心に響く音色として伝わってきました。演奏が終わった後に聞こえてきた大きな拍手が、それを物語っています。

発表会后、参観いただいた皆様から感想を寄せていただきました。「どの学年も清らかな歌声で全身にしみ渡り感激しました。」「一生懸命練習した成果が出ていて素晴らしかったです。」「京ヶ瀬のことが大好きだという思いが伝わりました。」など、ありがたううれしい感想ばかりでした。もちろん、子どもたちの発表に、私たち職員も大変感動しました。

これからも、心をつなぎ、より良い音楽を目指す楽しさを味わえる子どもたちであってほしいと願っています。

